

平成30年上尾市議会9月定例会
市政に対する一般質問 答弁要旨

(教育関連部分抜粋)

目 次

〔平成30年9月7日(金曜日)〕

●尾花 瑛 仁 議員	1
・ 地域の未来への戦略展開	
・ 公共施設の管理計画	
●深山 孝 議員	2
・ 図書館について	
●新道 龍 一 議員	3
・ 図書館について	
・ 子ども達をとりまく環境整備について	
●戸野部 直 乃 議員	6
・ 子どもたちの健康を守る学校の対策について	
・ 登下校時の安全確保について	
・ 特別支援教育の質の向上について	

〔平成30年9月10日(月曜日)〕

●小川 明 仁 議員	9
・ 文化財の保護と活用について	
●前島 るり 議員	10
・ 市民が楽しめる上尾水上公園のあり方	
●橋北 富雄 議員	11
・ 非核平和パネル展について	
●秋山 もえ 議員	11
・ 豊かな保育を保障するために	
・ LGBTQへの理解促進とパートナーシップ制度について	
●長沢 純 議員	12
・ スポーツ施設の充実について	
・ 図書館行政について	

[平成30年9月11日(火曜日)]

●大室 尚 議員	14
・ 公共施設について	
・ 小中学校のプログラミング教育について	
●池野 耕司 議員	16
・ 生涯学習活動について	
●野本 順一 議員	17
・ スポーツ宣言都市	

[平成30年9月12日(水曜日)]

●井上 茂 議員	18
・ 図書館行政について	
●平田 通子 議員	19
・ 安心・安全な学校に	
●新藤 孝子 議員	20
・ 小・中・高生の主権者教育について	
・ ブロック塀倒壊、家具の転倒防止について	

[平成30年9月13日(木曜日)]

●池田 達生 議員	22
・ 職員の働く環境について	
●糟谷 珠紀 議員	22
・ 市民がもっと利用しやすい図書館にするために	

[平成30年9月7日(金曜日)]

●尾花 瑛 仁 議員

・ 地域の未来への戦略展開

●SDGsは、新学習指導要領にも記載された。本市では既に東中学校が、学習にSDGsを取り入れている。教育を通じた将来世代への啓蒙は大変重要と思うが教育長のご所見は。

○教育長（池野和己） 持続可能な社会の担い手を育成するためにSDGsに関する学習等を奨励していくことは、教育の果たす役割として極めて重要であると認識しており、現在、研究開発学校の指定を受けている東中学校がSDGsの概念を取り入れた研究を進めているところです。上尾市教育委員会としましては、その成果を市内全小・中学校で共有し、児童生徒一人一人が地域や地球規模の諸課題を自らの課題として捉え、持続可能な社会づくりを進めていく力を身に付けることのできる教育活動を推進してまいりたいと存じます。

・ 公共施設の管理計画

●新図書館複合施設の工事見直しに関し、業者との間で文書などの取り交わしは行われたか。

○教育総務部長（小林克哉） 工事請負契約を締結した受注者6者に対しましては、7月9日をもって契約解除を通知させていただきました。

●最適化事業債について、「見直し」の表明までに借り入れた金額、事業の支払いに使用した分の内訳は。

○教育総務部長（小林克哉） 公共施設最適化事業債、公共施設等適正管理推進事業債については、集約化、複合化事業に係る部分について活用しており、既に支払った実施設計等委託料、用地購入費、用地買収に伴う補償金、整備工事費、前払金の財源に充てております。その額は1億7,420万円でございます。

●工事を止める場合に議決は要しないのか。

○教育総務部長（小林克哉） 地方自治法の行政実例では、議会の議決を経た契約を解除するには、議会の議決を要しないとされているところでございます。

●図書館行政を丁寧に説明いただきたい。市長の見解を。

○市長（畠山 稔） 今後も議会に対して丁寧な説明を行ってまいります。

●損害賠償の協議の状況、賠償の範囲、金額の試算は。

○教育総務部長（小林克哉） 工事代金については、契約解除に伴う出来形、すなわち工事が完成した部分について工事検査終了後に支払いをさせていただくこととなります。また、工事出来形以外の工事の実績を伴わない損害額につきましては、請負業者にその額の積み上げをお願いしているところでございます。

●図書館行政の今後のビジョンは。

○市長（畠山 稔） 上尾市図書館は、多様化、高度化する市民ニーズに応えられるよう、生涯にわたる豊かな学びのサポートをするための施設として、時代の要請を踏まえ、質の高いサービスを展開できる図書館を目指す必要があります。そのために、教育委員会には、ICTの活用を含めた図書館サービスの向上、バリアフリー化、施設設備の更新などの取り組みを含めた方向性を検討していただ

きたい。上平の土地は、図書館分館機能を含む複合施設を整備する方向で考えておりますが、本市の財政状況や公共施設マネジメントを踏まえ、どのような施設がよいのか検討してまいります。

●深山 孝 議員

・ 図書館について

●方向性やスケジュールが示されないまま、「工事再開でも、中止でもなく、現在の計画を見直す。」という表現をされている。「見直し」というのであれば、その根拠を。

○市長（畠山 稔） 取得した上平の土地につきましては、上尾市の公共施設マネジメントを踏まえた上で、図書館分館機能を含む、市民の方に活用していただける複合施設として整備する方向で検討することから、見直しという言葉を使わせていただきました。

●新図書館複合施設整備事業は、選挙の争点でもあったが、6月14日に小林議員の一般質問に答える形で表明された。市民の関心の大きい問題の判断の表明を、一般質問への答弁で済ませたのか、その理由は。

○市長（畠山 稔） 新図書館建設につきましては、議会で議決されたものでございますので、議会の中でご説明するのが適当と考えたものでございます。

●取得した土地には、公共施設マネジメント計画を踏まえて市民に喜んでもらえるような施設を建設している。市長は、「施設の複合化や多機能化、及び更新の際に必要なとされる機能の峻別と補完により総量を縮減し、新規整備は抑制する。」という原則を理解しているのか。

○市長（畠山 稔） 上平の跡地の利用について、公共建築物については、今後約40年間で経費の35%を削減するという公共施設マネジメントの目標値を踏まえて、公共施設マネジメントの原則が定められているところでございます。施設整備費及びランニングコストについて重要であると認識したため、市民の方々に必要とされ、喜んでいただけるような複合施設について公共施設マネジメントと整合性を図りながら進めていくことで、見直しを行うこととしました。

●市長は中止（見直し）の理由の最後に「図書館本館は街の中心部にあるのが自然であると考えたからです」としたが、大変な違和感がある。何故判断の表明で、発言を行ったのか。

○市長（畠山 稔） 図書館の位置については、より多くの市民の方に利用していただきたいと考えたからであり、「広報あげお」やホームページでは、見直しの主な理由として、市財政に与える影響を掲載したところです。

●6月議会で「中止（見直し）」を発表した時点で、なぜ、地元住民への説明をしなかったのか。説明の必要がないとも思ったのか。

○市長（畠山 稔） 地元住民である上平地区の皆さんに対しての対応については、7月4日の上平地区区長会において教育委員会より説明をさせていただきました。

●ランニングコストを中止の一番の理由にしたことへの、わかりやすい説明を。

○教育総務部長（小林克哉） 毎年度の維持管理費3億9,000万円は、市債など特定財源の活用が期待できる施設整備費とは異なり、一般財源により賄うことになり、大きな負担になると考え、見直しが必要と考えたからです。ランニングコストは将来にわたり必要となる重要な経費だと考えたからです。

●現在、現本館の維持管理のために実施すべき工事はあるか。また、青少年センターについて、今後、行わなければならない工事はあるか。あれば、その内容とそのために要する経費は。

○教育総務部長（小林克哉） 図書館現本館については、老朽化している電気設備やエレベーター等から計画的に修繕していきたいと考えております。青少年センターについても、緊急の修繕は必要ありませんが、部分的に設備の老朽化が散見されるところです。

●「上平の土地については、地権者の方々にご理解・ご協力をいただいたうえで、市が取得させていただいたもの」と言っているが、地権者へはどのように対応したか。

○教育総務部長（小林克哉） 6月定例会終了後、ご協力をいただいた旧地権者の皆さんには、個別にお伺いをしてご説明をさせていただいたところです。上平の土地につきましては、地権者にご理解をいただいて取得したものですので、しっかり活用させていただきたいと考えております。

●6月議会の判断表明に伴い、いつ請負業者へ通知したのか。

○教育総務部長（小林克哉） 工事請負業者の方々へは、事業見直しに伴い、工事契約約款に基づき、受注者6者に対し、7月9日をもって契約解除をさせていただきました。工事代金については、契約解除に伴う出来形、すなわち工事が完成した部分について工事検査終了後に支払いをさせていただくこととなります。また、工事出来形以外の工事の実績を伴わない損害額につきましては、請負業者にその額の積み上げをお願いしているところです。

●誰が中心となって検討するのか。すでに検討している組織を設置したのであれば、その構成部署は。いつ頃を目途に検討結果を得ようとしているのか。「地域住民の方にも活用していただける複合施設」と言うからには、市民の意見を聞く必要があると思うが、どのような方法で聞くのか。意見交換会か、公聴会か。

○教育総務部長（小林克哉） 新しい複合施設につきましては、庁内で検討した構想を、まず公共施設マネジメントに整合するかどうかについて上尾市個別施設管理基本計画等評価委員会に諮り、十分な手順を踏んで進めたいと考えております。また、市民の皆様にお示しする最適な時期や手法についても検討を重ねたいと思います。

●計画を再構築する方法とスケジュールは。具体案が見いだせなければ、6月の表明を撤回し、当初の案で事業を進めることを表明していただきたい。

○市長（畠山 稔） 新しい複合施設については、まず庁内で検討した構想を、公共施設マネジメントに整合するかどうか、十分な手順を踏んで進めていきたいと考えております。その後、市民の皆様にお示しする最適な時期や手法についても考えてまいります。見直しという方向性については、6月定例会で説明させていただいておりますので、そのとおりでございます。

●新道龍一議員

・ 図書館について

●議決権の権威について、市長の見解を。

○市長（畠山 稔） 議会に身を置いてきた経歴を持つ私といたしましては、議会の議決の重さは十分認識しております。

●この決定は、違法性はないのか。

○教育総務部長（小林克哉） 地方自治法の行政実例では、議会の議決を経た契約を解除するには、議会の議決を要しないとされているところです。

●新図書館建設見直しが、上尾市全体の図書館構想サービス計画にどう影響するのか。

○市長（畠山 稔） 上尾市図書館は、多様化、高度化する市民ニーズに応えられるよう、生涯にわたる豊かな学びのサポートをするための施設として、時代の要請を踏まえ、質の高いサービスを展開できる図書館を目指す必要があります。教育委員会では、図書館サービスの向上、バリアフリー化、あるいは施設設備の更新などの取り組みを含めた方向性を検討していただきたい。

●最終決断までに何故、半年もの月日を要したのか。

○教育総務部長（小林克哉） 新図書館複合施設整備事業については、これまでの経緯や現状のヒアリング、本館、分館、公民館図書室の視察のほか、現整備事業の推進を要望する団体や見直しを求める団体からの意見聴取を行いました。さらに、市全体の財政状況を踏まえた上で新図書館のランニングコストの精査を行っていたためでございます。

●半年の間、請負業者に対する進捗状況の説明はしていたのか。

○教育総務部長（小林克哉） 3月議会閉会后、事業の方向性について検討中である旨の報告を行いました。また、6月議会閉会后、見直しについて説明を行いました。その後、7月9日に請負業者の方々にお集まりいただき、市長自ら誠意を持って進めさせていただきたいと発信したところでございます。

●半年の間、市長から担当部局に対してどのような指示があったのか。また、その内容は。

○教育総務部長（小林克哉） 市長から担当部局に対し、市内図書館、本館、分館、公民館図書室の視察、新図書館複合施設整備についての説明やランニングコストの精査及び説明などの指示がありました。

●企業のイメージダウンに繋がる重大な問題の責任をどう感じているか。

○教育総務部長（小林克哉） 請負業者の方々には、イメージダウンにつながるような適切に対応してまいります。

●最適化事業債の取り扱いと返還時期は。

○教育総務部長（小林克哉） 事業費が確定し次第、借り入れ先である地方公共団体金融機構と協議を行い、今後繰上償還を行う予定です。

●元地主に対して、どのような対応をしたのか。

○教育総務部長（小林克哉） 6月定例会終了後、ご協力をいただいた旧地権者の皆さんには、個別にお伺いしてご説明をさせていただいたところです。

●元地主への説明で、何を具体的に説明したのか。

○教育総務部長（小林克哉） 新図書館複合施設の計画を見直すことのほか、上平の土地はしっかり活用させていただき、図書館分館機能を含む複合施設を整備することで検討したい旨などを説明しました。

● 地元の思いを今後どのような形で具現化していくつもりか。

○市長（畠山 稔） 上平の土地には、上尾市の公共施設マネジメント及び財政状況を踏まえた上で、図書館分館機能を含む複合施設を整備する方向で考えております。

● 地元の意見、要望をどのような方法で聴取し、活かしていくのか。

○教育総務部長（小林克哉） 庁内で検討した構想を、まず公共施設マネジメントに整合するかどうか、上尾市個別施設管理基本計画等評価委員会に諮り、十分な手順を踏んで進めたいと考えております。市民の皆様にお示しする最適な時期や手法についても検討を重ねたいと考えております。

● 具体案をいつ頃までに示すのか。

○市長（畠山 稔） 複合施設の具体案については、本市の公共施設マネジメントに沿って、拙速にならないように、十分手順を踏んで進める所存でございます。

● 過去の市の答弁で、上平地区に新図書館が必要と力説されておりますが、新たに検討される分館機能を含む複合施設にどのように活かされるのか。

○市長（畠山 稔） 新たな複合施設につきましては、これまでの経緯を踏まえた上で、上尾市における公共建設物全体の最適化につながる複合施設とすることを前提に検討いたします。

● 子ども達をとりまく環境整備について

● 特別教室のエアコン設置状況について。

○教育総務部長（小林克哉） 音楽室については、中学校は吹奏楽部等の部活動の活動状況や近隣住宅への騒音対策として先行設置してきたところであり、11校全校にエアコンが設置されております。小学校は、22校中9校に設置され、13校が未設置です。理科室は、小学校が18校、中学校が11校、図工室及び美術室は、小学校が17校、中学校が10校、家庭科室及び調理室は、小学校が17校、中学校は11校が未設置となっております。

● 小学校の音楽室は、22校中13校でエアコン未設置とのことだが、1校当たりのエアコン設置費用とランニングコストについて。

○教育総務部長（小林克哉） 学校により、エアコン設置に係る工事の条件や規模、導入する機種が異なりますが、昨年度音楽室にエアコンを設置した学校の設置費用は約200万円でした。また、稼働日数、稼働時間にもよりますが、1音楽室当たりの年間ランニングコストは約8万円と試算しております。

● 奈良県生駒市では、市立小・中学校に早期にエアコンを設置するため、ふるさと納税を利用している。本市においても、早期にエアコン設置を進める必要があると考えるが、特別教室へのエアコン設置の見通しについて伺う。

○教育総務部長（小林克哉） ふるさと納税の活用については、他市の事例を研究させていただきたいと思っております。特別教室のエアコン設置につきましては、利用状況等を検討しながら、音楽室未設置の小学校13校を最優先とし、計画的に進めてまいります。

●戸野部 直 乃 議員

・子どもたちの健康を守る学校の対策について

● 冷房を使用する基準は。

○学校教育部長（今泉達也） 冷房を使用する基準は、普通教室エアコン使用マニュアルで定めており、原則室温 28 度以上です。ただし、疾病等により特別な配慮が必要な児童生徒がいる場合や湿度 80%を超えた場合など、児童生徒の健康を第一に考え、校長の判断により基準外でも使用できることとしています。

● 最上階への教室の暑さ対策は。

○教育総務部長（小林克哉） 最上階の教室の暑さ対策として、校舎屋上の遮熱塗装があります。遮熱塗料は、太陽光の赤外線を高効率で反射して、室内の温度上昇を抑える塗料であり、その効果について検証してまいりたいと考えております。

● エアコンのついていない体育館、武道場、音楽室、美術室の数は。

○教育総務部長（小林克哉） 市内の小・中学校でエアコン設備のある体育館、武道場はございません。図工室及び美術室は、小学校は 22 校中 17 校、中学校は 11 校中 10 校でエアコン未設置となっております。音楽室は、吹奏楽部等の部活動の活動状況や近隣住宅への騒音対策として、中学校の音楽室を先行して設置したところであり、11 校全校にエアコンが設置されておりますが、小学校では 22 校中 13 校の音楽室には設置されておられません。

● エアコンのついていない教室を使用する場合の暑さ対策は。

○学校教育部長（今泉達也） 各学校では、十分な換気を行うとともに、扇風機や遮光カーテンなどを使用したり、合唱や笛の練習など普通教室でもできる授業は、普通教室で行ったりするなどの対策をとっております。エアコンが設置されていない教室に水筒を持たせ、休憩や水分補給をさせるなどの予防策を講じております。

● 体育館と武道場、特別教室へのエアコン整備の今後の見通しは。

○教育総務部長（小林克哉） 特別教室のエアコン設置につきましては、利用状況等を検討しながら、音楽室未設置の小学校 13 校を最優先として計画的に進めてまいります。

● 体育・部活動時の熱中症対策で活動禁止の基準は。

○学校教育部長（今泉達也） 本市では、公益財団法人日本スポーツ協会の熱中症予防運動指針に基づき、暑さ指数、WBGTが 31 度を超えた際には原則として運動を中止するという基準を定めています。

● 荷物を軽くする取組はどのようなものがあるか。

○学校教育部長（今泉達也） 各学校では、毎日持ち帰る必要のない学習用具は、学校に置いておくなどの対策をとったり、荷物が集中しないように、数日に分けて持ち帰らせるなどの配慮をしたりしています。

● 函館市では教育委員会として児童生徒が持運びする学習用具の負担軽減を求める通知を市内小中学校に対し通知してる。教育委員会の見解は。

○学校教育部長（今泉達也） 児童生徒の荷物が登下校の負担となっている場合があることは認識し

ており、対策について検討してまいります。

・ 登下校時の安全確保について

●国からの安全点検の指示を受け、どのような対応をとったのか。

○学校教育部長（今泉達也） 教育委員会では、児童が危険箇所近づかないように、各学校に対して、通学路沿いの危険箇所の把握と、児童や保護者への安全指導を指示するとともに、把握した危険箇所の報告を求めました。

●実際の点検は、どのように行ったのか。

○学校教育部長（今泉達也） 地震発生後、児童の安全を速やかに確保するため、緊急的に教育委員会が各学校へ依頼し、学校ごとに教職員が目視によりブロック塀などの安全点検を実施しました。その後、一定の基準のもとで、再度点検を行う必要があると判断し、全小学校の通学路について、夏季休業中に市の職員が分担して、目視による点検をしました。

●再点検はどのような基準で行われたのか。

○学校教育部長（今泉達也） 地盤から 2.2 メートルを超えるブロック塀等があるかどうか、また著しいひび割れ、破損、ぐらつき、または傾きがあるブロック塀等であるかどうかの 2 つの基準で行いました。

●危険ブロックに該当するのは何か所あったのか。

○学校教育部長（今泉達也） 地盤から 2.2 メートルを超えるブロック塀等は 96 カ所ありました。また、必ずしも倒壊の恐れがあるものではありませんが、著しいひび割れ、破損、ぐらつき、または傾きがあるブロック塀等は 171 カ所ございました。

●危険箇所の結果からどのような対応を行うのか。

○学校教育部長（今泉達也） 点検結果については、ブロック塀などの設置基準を所管する建築安全課へ報告し、各学校にも点検結果を伝え、児童への安全指導と保護者や見守りボランティアの方々などへの情報提供を指示したところです。

●上尾市における通学路の合同点検の実施は。

○学校教育部長（今泉達也） 教育委員会では、各学校に対し、警察や P T A、地域防犯ボランティアの方々と連携して、通学路の危険箇所の情報を収集するよう依頼いたしました。学校は、その情報をもとに、必要に応じて通学路の点検や危険箇所の分析を行い、危険箇所対策に複数の関係者との確認、協議が必要である、または直ちに対策を講じることが困難であると判断した場合、教育委員会に対して、合同点検を実施するよう要請を行うこととなっております。この合同点検を実施するかどうかの確認は、9月14日までに行うこととしており、その後合同点検が必要な学校につきましては順次実施していく予定でございます。

●「登下校時における安全確保対策の強化」をどのように進めるのか。

○学校教育部長（今泉達也） 学校や各防犯関係者、市の関係部署と連携して、見守り活動や安全教育の充実、防犯カメラの設置など、ソフト面とハード面の両面から研究を行ってまいります。また各学校が今年度より作成している地域防犯マップに危険箇所情報を追加し、防犯教育などで活用します。

現在、各学校では警察やスクールガードリーダー、地域防犯ボランティアの方々とも危険箇所の情報を共有し、地域と連携して学校安全パトロールカーによる巡回などを進めており、今後こうした活動を充実させるとともに、市の防犯担当部署などとも情報を共有するなどして、重点的で効果的な警戒やパトロールが行えるよう、安全確保対策を一層強化してまいります。

●子供が1人で登校しなければならない経路への安全対策は。

○学校教育部長（今泉達也） 教育委員会では、保護者に対し、学校に届け出ている自宅から学校までの通学経路図に、児童が一人で歩く経路を書き込んでいただくよう依頼し、その把握と危険箇所の防犯対策を行うこととしました。

●警察、学校、教委、見守りボラ間の不審者情報の共有は。

○学校教育部長（今泉達也） 教育委員会では、警察と学校の2つのルートから不審者情報を入手し、注意喚起のために速やかに各学校へファクスにて提供しております。各学校では、その情報を学校配信メールなどにより、保護者や区長、見守りボランティア、学校応援団などの皆様にお知らせしています。また、不審者情報が直接学校に入った場合、近隣の学校間でその情報を提供し合い、共有するようしております。

●地域における連携強化が重要だが、防犯関係者で意見交換する場があるのか。

○学校教育部長（今泉達也） 学校によりましては、スクールガードリーダーや地域防犯ボランティア、PTA、学校応援団などの関係者が学校に集まり、児童生徒の安全確保の取り組みなどについて協議を行っておりますが、今後地域における連携強化を進めていくことが課題であると認識しております。

●「ながら見守りの推進」や「ICタグ導入」を要望したいが、教育長の考えは。

○教育長（池野和己） 見守り活動に参加いただける方の人数には限りがある中で、できるだけ効率的で効果的な安全対策、見守りのすき間を埋めていく新たな手法を検討していくことが大きな課題と認識しております。今後、地域全体で子どもたちに目配りができるような環境整備を市長部局とも連携して、研究をしてまいりたいと存じます。また併せて、児童生徒が周囲の危険を自ら察知して、自ら考えて、回避できる力を養っていくことも大変重要であることから、防犯教育についても一層充実して教育活動を進めるよう、教育委員会としても学校を指導してまいりたいと存じます。

・ 特別支援教育の質の向上について

●特別支援学級の教員は特別な資格を持った方が配置されているのか。

○学校教育部長（今泉達也） 特別支援学級の担任は、特別な資格を必要とするという法令上の規定はありませんが、現在、市内の特別支援学級に配置されている教員の約半数が特別支援学校教諭の免許状を有しております。

●特別支援学級を初めて受け持つ際、事前に研修等を受ける機会はあるか。

○学校教育部長（今泉達也） 特別支援学級を担当する前に受ける研修としては、上尾市特別支援教育推進研修会がございます。

●各学校では、特別支援教育の実践的な対応力を高めるために、どのような研修を実施しているのか。

○学校教育部長（今泉達也） 各学校では、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターによる巡回相談を活用して、特別な教育的支援を要する児童生徒の教育的ニーズに応じた支援の在り方などについて理解を深めるための、実践的な研修を実施しております。

● 文科省のHPIには、教育委員会が中心となり、研究授業等を内容とする研修システムについて検討すべきである。とあるが、何か検討していることや、今後、検討の考えはあるか。

○学校教育部長（今泉達也） 上尾市教育委員会では、特別支援学級担任の専門性の向上と担当者の育成が課題であると捉えております。現在、障害種に応じた指導法を身につけ、授業力を高めるための授業研究会などを実施しており、今後も特別支援教育の充実を図ることができるよう、研修の在り方について検討を重ねてまいります。

〔平成30年9月10日(月曜日)〕

●小川明仁議員

・文化財の保護と活用について

● 上尾の摘田・畑作用具の現在の状況と保管状況について。

○教育総務部長（小林克哉）平成29年度から国宝に次ぐ国指定重要有形民俗文化財への指定を受けることを目指し、資料を整理、調査し、図面を作成する資料の調査、整備を実施しています。資料は現在、大石南小学校の余裕教室に一括で保管しております。

● 市内の摘田・畑作用具以外の文化財の種類と現況について。

○教育総務部長（小林克哉）市が保管している歴史資料には、市指定文化財である南村須田家文書などの古文書や上尾市の合併前の旧町村の役場文書などがあります。考古資料では、埼玉県指定文化財となっている殿山遺跡出土旧石器などがあり、民俗文化財では昔の暮らしを知ることのできる生活用具等があります。地域の所有者によって保存、管理されているものには、仏像や建造物、天然記念物などがあります。また、獅子舞や祭りばやしなどの民俗芸能、お祭り等の民俗行事は、地域の無形民俗文化財として保存団体等によって継承されています。

● 文化財の活用方法、実施事業と見解について。

あげお歴史セミナーの中で小学生が地域の文化財をめぐるあげお歴史探検ツアーの実施や、尾山台団地自治会や地域振興公社と共催で年2回の文化財展を開催しています。また、平成30年3月にインターネット上に公開した「あげお文化遺産ガイド」は、市指定無形民俗文化財を中心に映像を公開しており、上尾市の児童の社会科副読本である「のびゆく上尾」に「あげお文化遺産ガイド」を紹介し、学校での普及も図っていきたいと思います。いずれの取り組みも、次世代の若手継承者育成へのきっかけづくりと郷土愛の育成を図っていくことになるものと考えております。今後は、無形文化遺産だけでなく、歴史資料や考古資料なども含めたデジタルコンテンツの内容を検討してまいります。

● 文化財の現在の保管状況について。

○教育総務部長（小林克哉）現在の文化財等は、大石南小学校及び平方北小の余裕教室、平方小整理室、文化財収蔵庫、原市資料室に分散して保管しております。

● 本年6月の文化財保護法の改正について。

○教育総務部長（小林克哉） 文化財保護法の改正は、近年の過疎化、少子高齢化等に伴い、文化財を保存、継承する担い手の不足に対応した、文化財を社会全体で支えていく体制をつくることを目的としております。そのため、市町村による文化財保存活用地域計画の策定が求められ、地域に所在する国、自治体の指定文化財だけでなく、未指定文化財も含めた総合的な計画とすることとされています。また、これまで教育委員会が所管することとされてきた文化財行政について、文化財を観光やまちづくりに生かしつつ、地域社会総がかりで取り組んでいくことができるよう、市長部局が担当できるように改められています。

●文化財の保存と活用について、近隣自治体の情報は。

○教育総務部長（小林克哉） 桶川市や蓮田市などの近隣自治体には博物館や資料館が設置されています。保存と活用については、このような施設を中心に行っています。また、さいたま市や川越市等については、市内に複数の博物館等を有し、文化財の種類に合わせた管理、保管を行いながら、これを活用しております。

●保管状況に対する見解について。

○教育総務部長（小林克哉） 地域の文化財を包括的、総合的に捉えて保存と活用を計画的に図っていくためには、文化財や資料を適切に保存、管理できる収蔵施設が必要であると考えております。

●今後の計画や方針について。

○教育総務部長（小林克哉） 文化財保護法の改正により、地域の文化財の保存活用計画についての文言が追記されることに鑑み、地域が文化財を核としてつながり、周辺環境まで含めて保存と活用を図っていくという歴史文化基本構想の他市の先行事例等も参考に、地域を包括した文化財の保存活用計画の策定を検討し、文化財のより一層の活用が図れるよう努めてまいります。

●前 島 る り 議員

・ 市民が楽しめる上尾水上公園のあり方

●さいたま水上公園の現状について。

○教育総務部長（小林克哉） さいたま水上公園にはもともと7つのプールがありましたが、平成24年度に流水プールが芝生広場に、平成27年度に室内プールがフットサル場にリニューアルされ、平成30年度には大型変形プールが廃止されました。年間利用者数につきましては、平成27年度が8万1,935人、平成28年度が7万2,509人、平成29年度が6万3,016人となっております。

●屋内50mプールの建設目的と計画の進捗状況について。

○教育総務部長（小林克哉） 屋内50メートルプールの建設目的につきましては、アスリートの競技力向上に加え、一般県民を対象とした生涯スポーツの振興や健康づくりを目的として検討を進めていると伺っております。計画の進捗状況につきましては、現在基本計画の策定中であるとのことですので。

●上尾市の資金負担について。

○教育総務部長（小林克哉） 市の資金負担につきましては、他県の状況を調査したところ、周辺道

路等の整備を市が行った事例がございました。

●橋北富雄議員

・ 非核平和パネル展について

●以前の質問「社会科見学として行っては？」その後の進捗状況は。

○学校教育部長（今泉達也） 社会科見学は、各学校が学習内容や児童生徒の発達段階を考慮して決定しております。中学校では、江戸東京博物館や東京大空襲・戦災資料センター、昭和館などを訪問し、戦争資料に関する展示を見学している学校がございます。上尾市教育委員会では、社会科見学で使用可能な埼玉ピースミュージアムが収蔵している各種資料などの情報を各学校に提供しております。

●秋山もえ議員

・ 豊かな保育を保障するために

●平方幼稚園の園児数、保育料について。

○教育総務部長（小林克哉） 平方幼稚園の園児数は、9月1日現在、年長11名、年少15名、合計26名です。保育料については、月額7,500円です。ただし、生活保護世帯等は0円、市町村民税非課税世帯は3,000円です。その他、多子軽減制度、母子・父子世帯及び在宅障害者のいる世帯の軽減制度もあります。

●幼児教育振興協議会での検討内容について。

○学校教育部長（今泉達也） 幼児教育振興協議会では、平方幼稚園に関する協議として、平成29年度に現状把握と意見交換を、今年度は平方幼稚園の視察を行っております。

●平方幼稚園の保護者から寄せられている意見について。

○教育総務部長（小林克哉） 平成29年7月に平方幼稚園及び近隣の私立幼稚園を利用されている保護者の皆さんにアンケートを実施しました。平方幼稚園の保護者からのご意見としては、教育内容、教育水準に対して満足度が高く、多くの保護者に評価されました。一方で、3年保育や給食の導入、預かり保育を望む声もありました。

●3歳児保育、給食導入、預かり保育など保護者の声を生かした改善について市の見解は。

○教育総務部長（小林克哉） 3年保育や預かり保育の実施については、幼児トイレ等の新たな設備投資や人員配置が必要となるものと思われます。また、給食の導入については、隣接する平方小学校の給食室の活用が考えられますが、栄養士の配置、備品、消耗品など新たな整備や食材発注、調理方法等の見直しが必要となります。近年急速に進む幼児人口の減少や共働き家庭の増加など社会情勢の変化により、幼稚園を取り巻く状況は大変厳しいものがあり、市内私立幼稚園の充足率が7割未満という状況の中、公立幼稚園においてこのような事業の拡大は民営圧迫につながるというご意見もいただいております。平方幼稚園では、園児数の減少や施設の老朽化などの課題を抱えており、第8次上尾市行政改革実施計画の中で、民間幼稚園の就園状況に鑑み、抜本的な見直しを行い、その在り方について検討するとあることから、現状では新たなサービスの実施は難しい状況です。

・ LGBTQへの理解促進とパートナーシップ制度について

●LGBTQの方への偏見や無理解を無くしていくための教師に対する研修の実績と、今後の取組は。

○学校教育部長（今泉達也） 上尾市教育委員会では、管理職を対象とした、性同一性障害をはじめとする性的マイノリティについてと題する講演会や、法務省が作成した「性的マイノリティと人権」を題材とするDVDを活用した人権教育担当者研修会を実施しております。今後も、LGBTQを含めた人権問題に関する研修を推進してまいります。

●長 沢 純 議員

・ スポーツ施設の充実について

●上尾市のスポーツの現状と人口動向は。

○教育総務部長（小林克哉） 平成 30 年度上尾市体育協会の加盟団体は、野球、サッカーなど 44 種目であり、577 団体、会員数は 1 万 7,786 人でございます。団体、会員数とも前年度より減少しています。

●スポーツ都市宣言に相応しい市の取り組みは。

○教育総務部長（小林克哉） 上尾市民体育祭、上尾シティマラソンや上尾市民駅伝競走大会などのスポーツイベントやバレーボール教室などの各種スポーツ教室を開催し、スポーツ推進に取り組んでおります。また、平塚サッカー場などのスポーツ施設整備を行い、スポーツに親しみやすい環境づくりを行っております。

●「する」「観る」「支える」スポーツの取り組みは。

○教育総務部長（小林克哉） 「する」取り組みとして、上尾シティマラソンなどのスポーツ大会の開催、「見る」取り組みとして、埼玉上尾メディックスの試合などを通じて市民がトップレベルの競技を実感できる大会などの誘致、「支える」取り組みとして、専門性を生かしたスポーツ指導や生涯スポーツ実現のために地域で活動するスポーツ推進員の支援をする取り組みをしております。

● 市内スポーツ施設の水銀灯設置状況は。

○教育総務部長（小林克哉） 上尾市民体育館内施設の水銀灯設置数は計 129 器でございます。

● LED夜間照明の利用状況は。

○教育総務部長（小林克哉） LED夜間照明は、市民体育館施設内にはありません

● 2020年水銀灯中止に伴うLED照明への対応は。

○教育総務部長（小林克哉） 水銀灯の代替品として、メタルハイドランプやLED照明があります。

● 代替促進計画は。

○教育総務部長（小林克哉） メタルハイドランプであれば、現在の水銀灯の器具にそのまま取り付けることが可能で、金額は、1万円から2万円です。LED照明につきましては、金額が高額になることから、今後計画的にリース契約も含め考えてまいります。

● 上平球場人工芝の導入は。

○教育総務部長（小林克哉） 人工芝は、天然芝より工事の初期経費が5倍から10倍かかります

が、芝刈りや除草などの手間が要らないため、中長期的には維持管理費が抑制できます。また、人工芝にすることで雨天での使用も可能になること、天然芝のように養生による休止期間を設けなくて済むことから、人工芝の導入を予定しております。

●テニスコートについて、新幹線高架下の壁打ち施設の増設の考えは。

○教育総務部長（小林克哉） 管轄であるJR東日本大宮支社に確認しましたところ、対象となる高架下の敷地が広大であるため、貸し出しや施設設置の判断をするに当たっては、具体的に場所や広さなどを指定した上で綿密な打ち合わせが必要であるとの回答でございました。今後、テニス団体関係者などの意見を聞きながら調査研究してまいります。

・ 図書館行政について

●瓦葺分館の老朽化状況、屋根の補修計画、バリアフリー計画、今後の建設計画は。

○教育総務部長（小林克哉） 瓦葺分館は、昭和62年5月の開設以来、約30年が経過しており、今年度は尾山台出張所を含む施設内の空調設備の改修工事を実施してまいります。今後は、上尾市全体の公共施設の改修の緊急度に従い、順に改修を予定しているところです。また、同施設の屋根、バリアフリーにつきましても今後検討してまいります。空き店舗の活用については、施設の耐用年数や耐震補強の必要性などの課題も含めて検討してまいります。

●開館時間の延長はいつから実施するのか。

○教育総務部長（小林克哉） 分館、公民館図書室の開館時間については、延長できるようにさまざまな角度から検討しているところでございます。

●工事再開でもなく、中止でもなく、現在の計画を見直しとは、どのようなイメージをもっているのか。

○教育総務部長（小林克哉） 新図書館複合施設の計画は見直しさせていただき、新たな複合施設として整備する方向で検討してまいります。

●新図書館複合施設計画見直しに伴う各計画への影響は。

○教育総務部長（小林克哉） 第2次上尾市図書館サービス計画については、上尾市図書館の目指す方向性を示す計画となることから、見直しを行う必要があると認識しております。これからの図書館の方向性を検討する中で、適切な時期を考えてまいります。

また、上位計画である上尾市総合計画基本計画や上尾市教育振興基本計画などについて5年ごとの見直しとなっております。これにつきましても、適切な時期に図書館についての見直しの方向性を反映していくものと考えております。

●これまで掛かった経費と今後の支出は。

○教育総務部長（小林克哉） 平成26年度から現時点までのかかった経費は、実施設計委託料、用地購入費、用地買収に伴う補償金、整備工事費前払い金などを含む4億7,050万4,756円です。今後の支出予定は、契約解除に伴う出来形、すなわち工事が完成した部分の経費や協議中である損害賠償額となります。

●これまで掛かった経費のうち、市債分、つまり借入額はいくらか。

○教育総務部長（小林克哉） これまでに借り入れた市債は3億3,030万円となります。借り入れた

ものについて繰上償還をする予定であり、追加経費ではありません。なお、内訳は、公共施設最適化事業債、公共施設等適正管理推進事業債が1億7,420万円で、一般市債が1億5,610万円でございます。

●地元区長地権者にどのような内容を説明したのか。なぜ、地元の説明だけするのか。

○教育総務部長（小林克哉） 6月定例議会終了後、旧地権者や地元区長に新図書館複合施設整備事業の計画を見直すことについて説明をしたものです。市民の皆様には、市広報、ホームページ、記者会見などを通じて周知させていただいております。

●街の中心部にあるのが自然とは。

○市長（畠山 稔） 議会の中でも、上平の土地について、駅からの距離についてさまざまな議論があったことは承知しております。議会の議決をいただき、進めてきたことは大変重いものであると認識しております。私としては、より多くの市民の方々に利用していただきたいと考えたからです。

●どの程度の検討を考えているのか。

○教育総務部長（小林克哉） これまでの要望を踏まえて検討してまいります。

●6月議会の市長答弁から3か月たっているが、その間の進捗状況は。

○教育総務部長（小林克哉） 上尾市図書館は、多様化、高度化する市民ニーズに応えられるよう、生涯にわたる豊かな学びのサポートをする施設として、時代の要請を踏まえ、質の高いサービスを展開できる図書館を目指す必要があります。そのためには、ICTの活用を含めた図書館サービスの向上、バリアフリー化、施設設備の更新などの取り組みを含めた方向性を検討してまいりたいと考えております。

〔平成30年9月11日（火曜日）〕

●大 室 尚 議員

・ 公共施設について

●平塚サッカー場の工事計画の概要といつから工事が始まる予定なのか。

○教育総務部長（小林克哉） 工事計画の概要としましては、人工芝設置、夜間照明設置、バンガロー修繕などを予定しております。工事の開始時期につきましては、平成31年の秋ごろを予定しております。

●どのくらいの期間使用できないのか。

○教育総務部長（小林克哉） 平成31年の秋ごろから平成32年度初めを予定しております。

●平成32年度初めというのは4月1日以降でよろしいか。

○教育総務部長（小林克哉） そのとおりです。

●仕様設計について関係団体の意見を参考にしているのか。

○教育総務部長（小林克哉） サッカー協会及びスポーツ少年団の方々に意見を聞き、参考にさせて

いただいております。

● 照明支柱はどのように設置する予定か。

○教育総務部長（小林克哉） 現在の仕様といたしまして、サッカー場コート内の角4カ所と中央2カ所の計6カ所、14メートルの照明支柱を設置する予定です。

● メンテナンスについて。

○教育総務部長（小林克哉） メンテナンスにつきましては、人工芝の種類などにより点検項目が変わることから、今後検討してまいります。

● WBGT測定装置と簡易テント(熱中症予防)について。

○教育総務部長（小林克哉） WBGT、いわゆる暑さ指数測定装置と簡易テントにつきましては、熱中症予防の対策として利用団体などにテント、パラソル等の準備をするなど、注意喚起してまいりたいと考えております。また、将来的には市内各スポーツ施設に設置し、利用者が安全にスポーツを楽しむことができる環境を整えていくよう検討してまいります。

● クラブハウスについて。

○教育総務部長（小林克哉） 今回設置予定はございませんが、既存のバンガローを修繕し、1棟を用具置き場、1棟はエアコンを設置し、ミーティングルームとして利用いただけるよう考えております。

● 工事期間中の代替えグラウンドの予定は。

○教育総務部長（小林克哉） 県や関係施設とも調整し、また利用団体と調整しながら検討してまいります。

● 上尾市内の小中学校の体育館における水銀使用照明等の使用数と今後の交換計画は。

○教育総務部長（小林克哉） 現在上尾市内の小・中学校体育館で使用されている水銀使用照明器具は、高圧水銀ランプとメタルハライドランプです。そのうち、高圧水銀は424台使用していますが、水銀汚染防止法により平成32年12月31日以降、製造、輸出入が禁止となります。一方、メタルハライドランプは同法の規制対象になっておらず、ランプ交換の際には既設の照明器具で使用が可能なことから、規制後はメタルハライドランプの使用を考えています。なお、器具本体の交換については、学校施設整備全体の中で検討してまいります。

● 水銀使用照明を一気にLED化し、節約できた電気代を返済費用として充てる考えはどうか。

○教育総務部長（小林克哉） 水銀ランプ400ワット相当の照明器具をLEDの照明器具に交換し、1日4時間程度の点灯と仮定した場合、1台当たり年間で1万円程度の電気料金の節約ができるものと試算しております。今後は、既設器具の劣化状況等を考慮し、大室議員のご提案も参考にさせていただきながら、LED照明器具交換の検討を進めてまいりたいと考えております。

● 新図書館複合施設建設事業にかかったこれまでのすべての経費の詳細は。

○教育総務部長（小林克哉） 平成26年から現時点までのかかった経費は4億7,050万4,756円で、その内訳は用地買収関連費約3億400万円のほか、基本設計委託料、実施設計委託料、整備工事費前払い金などです。

● その経費から用地購入費を除く額に加えて、契約解除された請負業者の損害賠償額が加わった総額が無駄になると思うが、その点についてどう考えているのか。

○教育総務部長（小林克哉） これまでかかった経費約 4.7 億円から用地買収関連経費約 3 億円を除く額、約 1.7 億円と損害賠償額を合わせた総額については、市の負担となります。

● その1.7億円は上尾市で稼いだものか、市民のみなさまからの税金から捻出されるものか。

○教育総務部長（小林克哉） 市税等でございます。

・ 小中学校のプログラミング教育について

● プログラミング教育について、中学校はどの教科で学習しているか。また、小学校はどの教科で学習する予定は。

○学校教育部長（今泉達也） 中学校では、既に技術・家庭科で学習しており、小学校では新学習指導要領に例示されておりますが、算数科や理科、総合的な学習の時間で学習する予定となっております。

● 中学校の技術・家庭科で学習しているプログラミング教育ではどのような学習活動が行われているか。

○学校教育部長（今泉達也） コンピュータを利用した計測や制御の仕組みを学んだり、情報処理の手順を考え、フローチャートを用いて簡単なプログラムを作成したりするなどの学習活動を行っております。

● 小学校のプログラミング教育ではどのような学習活動が計画されるか。

○学校教育部長（今泉達也） コンピュータに意図した処理を行わせるのに必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画しております。例えば視覚的に分かりやすく、親しみやすいソフトウェアを用いてプログラムを作成し、算数科の授業で正多角形を描いたり、理科の授業で電気の流れを制御したりするなどです。

● 無償のSmallRubyの活用を提案したいが見解は。

○学校教育部長（今泉達也） 今後充実したプログラミング教育を行えるよう、ソフトウェアの導入につきましては研究を重ねて、進めてまいります。

● 池 野 耕 司 議員

・ 生涯学習活動について

● 今年度の公民館まつりの実技発表について。

○教育総務部長（小林克哉） 市内 6 公民館で毎年 5 月から 6 月に公民館まつりが開催されています。実技発表の分野では、6 公民館で 105 団体による合唱、音楽、ダンス、太極拳などの演技が行われており、発表団体はこの発表を励みに稽古に励んでいます。

● 講座終了後、学習を継続しているグループについて。

○教育総務部長（小林克哉） 市内各公民館では、市民の学習活動のきっかけとなる講座を年間 20 事

業程度実施しており、音楽、体操、防災など、過去3年間で31グループの学習グループが講座をきっかけに誕生し、学習を続けています。現在公民館を利用するグループは2,000以上あり、その中には文芸、手工芸、書道、読み聞かせなど、20年、30年と活動を続けているグループが多数あり、メンバーは学習を深め、地域の指導者として学習成果を還元しています。

●文化芸術事業における市民の参加状況について。

○教育総務部長（小林克哉） 平成29年度、美術展覧会では、日本画、洋画、立体造形、工芸、書、写真の全6部門合わせて442点の展覧会がありました。上尾市内の音楽愛好者グループの発表の場である市民音楽祭は、合唱祭で28団体、800名、邦楽祭で14団体、延べ113名、吹奏楽・器楽祭で11団体、330名の参加がありました。このほか、国内外で活躍されている上尾市在住、または上尾市出身の音楽家の皆さんが地元でより多くの演奏をご披露いただける機会として、あげおクラシックコンサートを平成26年度から開催しており、昨年度は、コミュニティセンターのホールが満員となりました。併せて、市内の小学生向けに小学校を会場として実施しているアウトリーチコンサートは、3,000人を超える児童が鑑賞しました。

●上尾音楽家芸術活動支援事業の実績と成果について。

○教育総務部長（小林克哉） 今年度は、コミュニティセンター、学校でのコンサートに加え、上尾中央総合病院のご協力により、院内のホールである中村記念講堂で12月8日に公演を行う運びとなりました。また、あげおクラシックコンサートの出演者によるアウトリーチコンサートは、毎年5校程度で開催し、平成26年度から今年度までの5年間で22校全ての小学校での実施となります。このコンサートを機に、子どもたちの夢が大きく広がり、出演者のような音楽家を目指す子どもたちが一人でも多くあられることを期待しております。本事業は、コンサートの実施を通して上尾市にゆかりのある音楽家同士が交流を深めていくことも目的としています。この成果として、あげおクラシックコンサートと同様のコンサートが上尾市文化センター、上尾市コミュニティセンター、イコス上尾等、さまざまな場所で盛大に開催されるようになりました。今後は、本事業で得られた実績を踏まえ、音楽だけでなくさまざまな芸術活動の奨励と充実のための事業を積極的に展開し、より多くの市民の皆さんが芸術に触れることができるよう進めてまいります。

●野本 順一 議員

・ スポーツ都市宣言

●市内スポーツ施設の現状と施設数について。

○教育総務部長（小林克哉） 市内スポーツ施設として、スポーツ振興課所管の上尾市民体育館、平方スポーツ広場、平方野球場、平塚サッカー場があります。そのほか、みどり公園課所管の平塚公園テニスコート、上平球場、上平公園テニスコートなどがございます。また、県営スポーツ施設として、上尾運動公園、県立武道館などがあります。

●平方スポーツ広場・平方野球場の昨年度の利用者数について。

○教育総務部長（小林克哉） 平方スポーツ広場の利用者数は17万8,939人、平方野球場の利用者数は4万1,971人です。

●利用者要望やアンケートについて。

○教育総務部長（小林克哉） 上尾市民体育館において、年4回アンケートを実施しており、利用者からの要望等を聞き取るようにしております。

●スポーツ都市宣言としてどのような施設が望ましいか。

○教育総務部長（小林克哉） 市民の健康寿命を延ばし、誰もが元気で健康な生活が送れるよう、身近な施設が望ましいと考えております。

●スポーツアカデミーのような優秀な選手の市としてのサポートや補助金は考えているか。

○教育総務部長（小林克哉） 上尾市体育協会のスポーツ振興基金において、優秀なスポーツ選手が上尾市を代表して県外、または海外で開催される大会へ出場する際に要する費用の一部につきまして助成する制度があります。

●平方スポーツ広場は上尾市として誇れる施設として認識しているか。

○教育総務部長（小林克哉） 平方スポーツ広場は、市民にとってスポーツ活動、健康づくりをはじめ多種多様なスポーツ、レクリエーション活動の重要な場所であると認識しており、屋外スポーツの拠点としてなくてはならない施設だと考えております。

●平方小学校正門前を平方スポーツ広場に向かう車両安全確保はできているか。

○教育総務部長（小林克哉） 当該道路については、平方小学校の通学路に指定されており、午前7時30分から午前8時30分までは車両の交通規制がされております。平方スポーツ広場の利用につきましては、「広報あげお」9月号に掲載し、注意喚起をいたしました。引き続き利用団体に注意喚起を行ってまいります。

〔平成30年9月12日(水曜日)〕

●井上 茂 議員

・ 図書館行政について

●広報では「図書館本館は、まちの中心部にあるのが自然であると考えたから」との理由が除かれているが、意図はあるのか。

○教育総務部長（小林克哉） 見直しについての主な理由として、市財政に与える影響を掲載したところです。

●市長、本当に意図はないのか。

○市長（畠山 稔） 今、先ほど申し上げましたとおり、主な理由といたしましては市財政に与える影響を掲載したところでございます。

●雨漏り、内外の壁の状況や館内の閲覧用の椅子の状況はどうか。また対策は。

○教育総務部長（小林克哉） 雨漏り対策は、その都度対応しております。建物の内外を含めた壁には、ひび等が見受けられる状況です。また、館内の閲覧用の椅子ですが、すり切れているものもあります。いずれにいたしましても、老朽化している設備などから計画的に修繕していきたいと考えてお

ります。

●第2次上尾市図書館サービス計画は、平成28年から32年までとなっている。計画の変更、改訂は行わないのか。

○教育総務部長（小林克哉） 第2次上尾市図書館サービス計画については、上尾市図書館の目指す方向性を示す計画となることから、見直しを行う必要があると認識しております。これからの図書館の方向性を検討する中で適切な時期を考えてまいります。

●図書館の計画策定に向け、市民参画を行うべきと考えるが、見解は。

○教育総務部長（小林克哉） 第2次上尾市図書館サービス計画の策定においては、パブリックコメントを実施し、市民の意見をいただきましたことから、同様な方法を考えております。

●蔵書購入費、蔵書数及び貸出数のそれぞれの人口1人当たりの数が減っているが、見解は。

○教育総務部長（小林克哉） 今後、図書館の多様化するニーズの優先順位を考慮しながら、引き続き図書資料等の更新に努めたいと考えております。

●新図書館建設の課程で、各分館、公民館図書室の充実が求められ、新図書館開館と合わせてと答弁してきたが、どう対応するのか。

○教育総務部長（小林克哉） 今後、図書館本館及び分館を含む図書館全体のサービスのあり方を考える中で、市民や議会の要望などを参考にするとともに、本市の財政状況や公共施設マネジメントを踏まえ、検討してまいります。

●図書館サービス計画のなかで電子書籍の提供が検討されているが、現状と課題と今後の方向性は。

○教育総務部長（小林克哉） 電子書籍のメリットは、図書館に来ることができない方やパソコンやタブレットを利用される方にとって非来館型のサービスにつながり、新たな利用者層の獲得が見込まれるものと考えております。一方、デメリットとして、電子書籍版として提供されている書籍が少ないことや購入費用が高額であるなど課題があります。今後は、これらの課題を含め、調査研究を進めてまいりたいと考えております。

●県内の電子書籍の導入状況は。

○教育総務部長（小林克哉） 県内では、さいたま市、春日部市、熊谷市、三郷市、桶川市、宮代町の図書館で既に導入をしております。

●平田通子議員

・安心・安全な学校に

●子供たちが自身の身を守るための安全教育は学校でどのように実施されているのか。

○学校教育部長（今泉達也） 特に不審者に対する安全教育では、警察官などを招いた防犯教室を実施しているほか、行かない、乗らない、大声を出す、すぐ逃げる、知らせるの頭文字をとった「いかのおすし」を合い言葉とした身を守る行動や子ども 110 番の家に助けを求める行動などを指導しております。交通安全教育につきましては、交通安全教室を開催し、危険の回避方法や事故防止の心構え

などを指導しているほか、中学校で交通事故の危険性を疑似体験させるスケアードストレート教育技法を取り入れた自転車安全講習会を開催している学校がございます。

● 防犯への取組で、学校と地域が連携するために、学校はどのようなことを実践しているか。

○学校教育部長（今泉達也） 各学校では、地域防犯ボランティアや学校応援団、PTAなどの皆様による見守り活動や学校安全パトロールカーの運行、PTAによる地域の危険箇所の調査などを依頼したり、地域の皆様に子ども110番の家にご協力いただいたりするなどの地域ぐるみの安全確保に取り組んでおります。

● 壁の老朽化等のチェックはどのようにしているのか。

○教育総務部長（小林克哉） 外壁については、建築基準法に基づき、1級建築士等による特殊建築物定期点検を3年に1度実施しています。また、市職員の建築技士による劣化状況等の調査も実施し、計画的に外壁改修工事を進めております。

● 樹木の管理、伐採について、市はどのような事をやっているのか。

○教育総務部長（小林克哉） 職員による学校訪問を年度当初に実施しており、その際に状況を確認し、樹木せん定等を実施しています。

● 冷水器は何年使っているのか。契約方法は。管理は。

○教育総務部長（小林克哉） 冷水器につきましては、平成16年度に5年間のリース契約にて整備を行い、リース期間終了後は譲渡を受け使用しており、古いものでは設置から14年が経過しております。なお、管理につきましては、冷水器の残留塩素を日々測定し、水質管理に努めております。

● 特別教室のエアコン整備をする必要があると考えるが、市の認識は。

○教育総務部長（小林克哉） 小・中学校特別教室のエアコン整備につきましては、コンピュータ室及び図書室においては全ての学校で整備を終えておりますが、そのほかの特別教室については学校によって整備の進捗に差があります。エアコン未整備の特別教室につきましては、利用状況等を検討しながら、音楽室未設置の小学校13校を最優先とし、計画的に進めてまいります。

● 予算の検討はされたのか。計画は。

○教育総務部長（小林克哉） 特別教室のエアコン設置については、予算も含め、学校施設整備全体の中で検討を進めてまいります。

● **新藤孝子議員**

・ **小・中・高生の主権者教育について**

● 教職員の資質向上に、どんなことが行われたか伺う。

○学校教育部長（今泉達也） 教育委員会では、教職員に対して、これまで、研究授業や研究協議などを通して指導力向上に向けた指導、助言を行ってまいりました。また、文部科学省が作成した「教師用リーフレット」や「学校における指導に関する自己チェックリスト」などを配布し、複数の資料を用いて多様な見解を比較検討させるなど、政治的中立性の確保を踏まえた授業ができるよう指導いたしました。

● 主権者教育に関する出前講座とは、どのようなものがあるか。

○学校教育部長（今泉達也） 埼玉県選挙管理委員会が行う「選挙啓発出前講座」や上尾税務署管内租税教育推進協議会が行う「租税教室」などがあります。

● 埼玉県選挙管理委員会が行う「選挙啓発出前講座」や、上尾税務署管内租税教育推進協議会が行う「租税教室」の具体的な説明と実績を伺う。

○学校教育部長（今泉達也） 「選挙啓発出前講座」では、選挙の意義や選挙制度などを学習し、架空の選挙を題材として、実際と同じ投票箱を利用した模擬投票を体験します。市内の小・中学校では、平成 29 年度の実績はございませんでした。「租税教室」では、学校に租税教育の研修を受けた税理士等が講師として派遣され、児童生徒が納税の仕組みや税金の種類、使い道などを国民主権と関連付けて学習します。平成 29 年度は、小学校で 19 校、中学校で 6 校が実施いたしました。

● 平成29年度、主権者教育の授業で模擬投票を行った学校は何校あったか。

○学校教育部長（今泉達也） 中学校で 6 校ありました。

● 小・中学校で、それぞれどんな主権者教育がされているか。

○学校教育部長（今泉達也） 小学校では、社会科で国民の権利としての参政権や選挙権、国民主権などについて学習しております。中学校では、社会科の公民的分野で、国や地方公共団体の選挙の仕組みや社会参画の意義などを学んでおります。また、小・中学校の特別活動では、学級会や児童会、生徒会活動などを通して、主権者として積極的に社会参画する意識の醸成を図っております。

● 東中学校が文部科学省より「研究開発学校」の指定を受け、グローバルシティズンシップ科を設立し、2015～2019年3月までの4年間実践されているということだが、内容と成果を伺う。

○学校教育部長（今泉達也） 内容といたしましては、世界が抱える貧困、環境などの課題や上尾市の政策課題などを題材として、生徒が主体的に協議や討論を行い、問題解決能力を身に付ける学習などです。成果として、生徒同士の対話が深まり、豊かな人間関係が構築されていることや、生徒の社会参画意識の向上が見られることなどが挙げられます。

● 社会の担い手として主を育て「民主主義」を子ども時代から育てることは大切なことだと思うが、どのような主権者教育を目指しているか。

○教育長（池野和己） 児童生徒が主権者として社会の中で自立してたくましく生き抜く力を育み、よりよい社会を実現するため、他者と連携、協働できる資質を身に付けることがまずもって極めて重要なことだと考えております。上尾市の児童生徒が、日頃から、自らに厳しく、相手に優しくできる自己の確立を目指すとともに、発達段階に応じて、「私は上尾市民の一員である。」という自負を持って、将来、「郷土上尾」を築き、支える人材となり得るよう、主権者教育を推進してまいりたいと考えます。

・ ブロック塀倒壊、家具の転倒防止について

● 大阪北部地震での事故を受けて緊急の安全点検が行われたようだが、どのような指示のもと、どのような方法で点検したのか伺う。また、安全点検の結果と、その後の対応について伺う。

○教育総務部長（小林克哉） 教育委員会では、高槻市の事故を受け、市内小・中学校及び公立幼稚園のブロック塀の安全点検を実施しました。点検方法は、文部科学省からの「学校におけるブロック

塀等の安全点検等について」の指示を受け、目視により外観基準に基づく安全点検を実施しました。その結果、基準に基づき設置されていないブロック塀を小・中学校 10 校、公立幼稚園 1 園で、また、ブロック塀のひび割れや損傷を 8 校、1 園で確認しました。その後追加で修繕の必要が確認された 3 校を加えた小・中学校、幼稚園のブロック塀改修工事を実施し、危険箇所の除去は完了しております。

● 学校の塀が安全でも登下校の危険は残る。通学路の安全点検はされたのか伺う。

○学校教育部長（今泉達也） 通学路の安全点検については、教育委員会から各学校に対して緊急点検を依頼し、当該学校の教職員が目視により実施いたしました。その後、夏季休業中に市職員が目視により全通学路の安全点検を再実施いたしました。この再実施の結果、2.2 メートルを超えるブロック塀などが 96 カ所、必ずしも倒壊の恐れがあるものではありませんが、著しいひび割れ、破損、ぐらつきまたは傾きがあるブロック塀などが 171 カ所確認されました。結果につきましては、建築安全課に報告するとともに各学校にも伝え、児童への安全指導と保護者や見守りボランティアの方々などへの情報提供を指示したところです。

[平成30年9月13日(木曜日)]

●池田達生議員

・職員の仕事環境について

●小中学校に勤務する正規職員数と非正規職員346人の内訳について。

○学校教育部長（今泉達也） 平成 30 年 4 月 1 日現在、小・中学校に勤務する正規職員は、本採用の県費負担教職員が 915 人、給食調理員や用務員の市費職員が 45 人の合計 960 人です。

また、小・中学校などに配置している非正規職員 346 人の内訳でございますが、アップスマイル教員及びアップスマイルサポーターなどの教員の補助的業務に携わる者が 153 人、給食調理員が 79 人、保健事務補助員及び看護師パートが 59 人、学校事務パートが 33 人、教育センター職員が 11 人、さわやか相談室相談員が同じく 11 人です。

●アップスマイル教員及びアップスマイルサポーターの仕事内容と人員数、勤務時間について。

○学校教育部長（今泉達也） アップスマイル教員は、中学校 1 年生において、少人数学級を編制するために配置している市費教員であり、仕事内容は他の教員と同様、教科指導や生徒指導などです。今年度の配置人数は 7 人、勤務時間は 1 日につき 7 時間 45 分となっております。

また、アップスマイルサポーターの仕事内容は、特別な支援や介助を必要とする児童等の支援で、現時点での配置人数は 79 人、勤務時間は 1 日につき 5 時間となっております。

●糟谷珠紀議員

・市民がもっと利用しやすい図書館にするために

●新たな取り組みとして、大石分館に併設している消防の会議室を学習スペースとして設けたのはとても良い試みだ考える。何がきっかけで開放することになったか、利用者は何人でどんな評判だったか。

○教育総務部長（小林克哉） 市長が分館公民館図書室の視察を行った際、大石分館に隣接する西消防署会議室の活用を図ることにより学習室利用の要望に応えることが可能ではとの考えから指示を受

けたもので、7月21日から8月31日までの夏季期間中開放いたしました。時間帯別の利用人数は、最大で14名で、落ちついた空間で学習ができるなどの意見がありました。

●第2次図書館サービス計画では、開館時間について、「市民ニーズに応じた開館日・開館時間を設定」と目標を掲げている。市民ニーズをどう把握するのか。調査結果を受け、実施に向けてどのように反映していくのか。

○教育総務部長（小林克哉） 過去のアンケート結果や利用者の要望等を踏まえ、延長できるようにさまざまな角度から検討しているところです。

●改修が必要な図書室や分館はどこで、どんな内容なのか。優先順位をどのようにつけていくのか。

○教育総務部長（小林克哉） 今年度については、瓦葺分館の空調設備の改修工事を予定しております。今後は、上尾市全体の公共施設の改修の緊急度に従い、順次改修を考えているところでございます。

●Wi-Fi環境の整備の検討の進捗状況は。

○教育総務部長（小林克哉） 他市の状況や利用者の要望等を踏まえて検討したいと考えております。

●第2次図書館サービス計画の練り直しはする予定か。どんなスケジュールで行い、新たな目標設定をするのか。

○教育総務部長（小林克哉） 第2次上尾市図書館サービス計画については、上尾市図書館の目指す方向性を示す計画となりますことから、見直しを行う必要があると認識をしております。これからの図書館の方向性を検討する中、適切な時期を考えてまいります。